

6. 広報活動

6.1. オープンキャンパス

8月10日に、「高校生・受験生のためのオープンキャンパス2023」が大岡山キャンパスで開催され、本機構は、説明会及び模擬講義を実施しました。説明会及び模擬講義とも申込開始日の翌日には会場参加が満席となり、高校生・受験生が4年ぶりのキャンパス開催となったオープンキャンパスに強い関心を持っていることがうかがわれました。

6.1.1. 説明会:『DS&AI for ALL』きみと人工知能のつながり

説明会は、会場とオンラインのハイブリッドで開催し、約400名が東工大蔵前会館のくらまえホールとロイヤルブルーホール(パブリックビューイング)で参加し、約100名がオンラインから参加しました。前半では、奥村圭司特任准教授が、各学院でどのようにDS・AIが使われているのかについて説明し、どの学院に入学してもDS・AIを学ぶことのできる本機構のプログラムについて紹介しました。後半では、三宅美博機構長、柳澤深甫助教、奥村圭司特任准教授が、本機構の教育内容や将来進学したい分野の研究など、参加者からの様々な質問に答えました。

参加者の声

・データサイエンスやAIについて学びたいならば情報理工学院に入るしかないと思っていたので、どの学院からも勉強できる環境が整っており、自分の興味のある分野を専門としながら学ぶという手段もあるのだと知ることができてよかったです。



6.1.2. 模擬講義: データから確率を導きだせ! ベイズ統計学から実応用まで

模擬講義は、デジタル多目的ホールで開催し、約300名が参加しました。前半では、宮崎慧特任教授が、スパムフィルタとは何か、ベイズ統計学の歴史、ベイズの定理などについて紹介した後、Pythonでの確率計算によるスパムフィルタの実演を行いました。参加者はメモを取るなど興味深い様子で受講していました。後半では、奥村圭司特任准教授が、DS・AIの手法やデータ活用時の注意点について簡単に説明しました。

参加者の声

・ベイズの定理を用いたスパムメールの判別がとても興味深かったです。
・話の内容は難しかったけれど理解はしやすかったです。楽しかったです!ありがとうございました。



6.2. DS&AIセミナー

11月29日に、大岡山キャンパスの学生交流施設Taki Plazaにて、DS&AIセミナー「生成系AIの社会課題」をハイブリッド形式(Zoom)で開催しました。学生が社会への関心を高めることを主な目的とした本セミナーは、学士課程1年生から博士後期課程の学生まで、また教職員からも多くの関心を集め、現地とオンライン参加を合わせて、75名以上が集まりました。急速な技術革新を起している生成系AIの社会的な課題について、講師の鈴木健二特任教授が、初学者向けにもわかりやすく解説しました。未解決の社会問題や関連する技術について、参加者から活発な質問があり、大盛況のセミナーとなりました。



講師の鈴木健二特任教授



会場風景

Agenda



講演の資料(目次)

1. なぜ社会課題を学ぶのか
2. AIの変遷と生成系AI
3. 生成系AIのリスク
 - (1)機密情報の漏洩と個人情報の不適正な利用のリスク
 - (2)犯罪の巧妙化・容易化につながるリスク
 - (3)偽情報等が社会を不安定化・混乱させるリスク
 - (4)サイバー攻撃が巧妙化するリスク
 - (5)教育現場における生成AIの扱い
 - (6)著作権侵害のリスク
 - (7)AIによって失業者が増えるリスク
4. 生成系AIでの法的問題
5. AI規制の動向
6. 技術的に解決できていない生成系AI問題の一例
7. 更に詳しく学びたい方へ



会場のTaki Plaza外観

参加者の声

- ・生成系AIをどのように使えば社会に役立てられるかについて、もっと考えてみようと思った。
- ・今後、生成系AIの進展に伴い、DS&AIのセミナーを定期的で開催してほしいです。
- ・新しい技術の開発は、良い面だけではなく必ず負の側面がある。社会学者や技術者は、必ずELSIの観点から負の側面のリスクを考え、技術をどうすれば社会に役立たせられるかという意識を持って研究開発を進めなければならないと思いました。

6.3. その他広報活動

本機構のプログラムや活動について、学外にも広く情報を発信しています。

ウェブサイトは、PCやスマートフォンなど、様々な端末からのアクセスを考慮したレスポンシブルデザインとなっており、日英併記で表記しています。プログラムの紹介、イベントの告知や実施報告、授業配信、大学間連携や企業連携に関する情報の他、DS・AIへの興味や理解を深めてもらうための企画ページを作成しています。

これから進路選択をする受験生に向けた情報の発信も積極的に実施し、「東進進学情報」(9月1日発行号)および進学情報サイト「データサイエンス百景」(10月31日掲載)の中で、当機構のプログラムや活動について、詳しく掲載されています。

本機構ウェブサイト(インタビュー企画)

